

郡山市制施行 100 周年記念  
東北 SDGs 未来都市サミット in こおりやま広域圏  
パネルディスカッション 発言要旨

日時：2024 年 8 月 10 日(土) 10:45～11:50

場所：ビッグパレットふくしま多目的展示ホール

(パネリスト)

**渥美 巖 東松島市長**

【各都市の取り組み】

- スポーツ健康都市を宣言し、スポーツを通じた豊かな健康なまちづくりを進めている。
- 令和 4 年には環境省から脱炭素先行地域に選ばれており、太陽光発電をメインに地域脱炭素を進めている。
- 秋鮭の漁獲量が最盛期の 1%になってしまった。海を守る活動を行っている。

【首長自身にとって SDGs とは】

- 無いものを作るよりも、先人が築いてきたそれぞれの地域・風土に根差したものをどれだけ活かしてまちづくりを進めていくか、無い物探しでなく有る物を活かすということ考えていくべき。
- 気候変動に合わせた新しい農業・漁業も取り入れていく必要があるのではないか。
- 脱炭素先行地域に選ばれているので、積極的にカーボンニュートラルに取り組んでいきたい。

【ウェルビーイングというものをどのように考えているか】

- 持続可能な社会を作っていくために一定の人口は必要であり、人口減少対策は重要
- 若い世代に魅力あるまちにするには、子育て環境をどれだけ充実させるか。
- スポーツを通じた明るいまちづくりや自然環境
- 防災・減災対策を含めて安全・安心なまちづくりは大きな政策の一つ

## (パネリスト)

### 近藤 洋介 米沢市長

#### 【各都市の取り組み】

- 人づくりが基本と考えており、子育て・教育のまちづくりを掲げ、学校給食の完全無償化と地産地消・食育を進めている。
- 牛糞を使ったバイオマス発電を行い、環境に配慮した新しい米沢牛を作ろうと進めている。
- 住み続けたいまちのネックになっているのが冬の雪であり、その対策を行っている。

#### 【首長自身にとって SDGs とは】

- 昔の日本人は実は SDGs を実践していたのではないかと。少なくとも江戸時代は循環型社会を作っていたのではと思う。
- 大量生産・大量消費の戦後モデルが通じなくなった現代において、かつての日本の良さを学びながら世界に発信していく。
- SDGs はヨーロッパから言われる話ではなく、そもそも日本人が本質的に持っていたものではないかと考える。

#### 【ウェルビーイングというものをどのように考えているか】

- 住民の命と安全を守るのが根本ではあるが、質の高い暮らしができるということ。
- 質の高い暮らしは、食べ物と住まい
- 人間の住みやすい環境づくりは、地方だからこそできる。広い場所で高气密高断熱の環境に配慮した住宅を作り、備蓄など防災に対応できる。
- ウェルビーイングとは、命と健康を守る土台を作ること。そのための基本が食べ物であり、地産地消ができる環境があること、さらにある程度広くて安心な建物を作ること。これができるのは、地方都市でしかできないと確信を持っている。



## (パネリスト)

### 品川 萬里 郡山市長

#### 【各都市の取り組み】

- 少子化・人口減少や気候変動を考えると、SDGs は「サバイバル・DX・ゴールズ」という趣旨で考えていく必要がある。
- 人口密度について、OECD38 か国で比較すると日本は 5 番目、G7 で比較すると 1 番目と超過密国家である。日本は 335 人/km<sup>2</sup>であるが、アメリカは 34 人/km<sup>2</sup>、カナダは 4 人/km<sup>2</sup>と超過疎地帯である。グローバルスタンダードでいうと過疎ではない。
- SDGs の取組は着眼大局着手小局のことと認識して、それが大事である。

#### 【首長自身にとって SDGs とは】

- 「誰一人取り残さない」という日本国の訳は誤訳ではないか。私は「誰一人取り残されない」と直訳したほうが良いと考える。
- 郡山はスタートアップのまち。スタートアップをするのに非常に良い土地柄・文化であるが、先立つものはお金。行政はどうやってそれをお手伝いするか、税金をどう使えば企業が発展し、生活が豊かになるかということを考える投資家であり、私自身は CFO だと思っている。

#### 【ウェルビーイングというものをどのように考えているか】

- 社会福祉について、法律でいうと生活保護法や破産法があるが、これらは最後には自立を促進するとなっている。「生活保護法」は「生活保障法」に名前を変えるべきでは。
- 法律条例を作って運用するが、その法律条例の名前が本当にその法律条例の精神を表しているのか、皆様と一緒に考えていければと思う。



(コーディネーター)

**川廷 昌弘 慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ アドバイザー**

- SDGs のゴール 3 には、ウェルビーイングと書かれている。
- SDGs はまちの魅力を伝える使いやすいコミュニケーションツールでもあり、次の 100 年を見据えたまちづくりを考えるツールでもある。
- SDGs で一番大切なのは、人任せではなく主体的に小さな一歩を記すこと。
- ウェルビーイングという言葉を日本語にすると「福祉」と味気なくなってしまうが、地域の特性を活かすこと、暮らしやすさ、食べるものなど多岐にわたるものである。
- SDGs は誰かがやってくれることではなく、自分たちがやれることで誰かに良い影響を与える好循環を引き出すためのツールであると思う。
- ウェルビーイングなまちで自分が豊かに幸せに暮らすためには、誰かがやってくれるのを待つのではなく、私たち自身がちょっと一歩を踏み出すこと。それにより、問題意識が相手に伝わり、改善されるかもしれない。SDGs というキーワードを使うことで、何かのきっかけを作る当事者になれる。

